学校だより　「花里の子」

令和８年度　第１５号（令和８年１０月２６日）　　伊丹市立花里小学校長　小木曽　笑子

豊かな心を育む言葉の力

朝夕の風が冷たく感じるようになり、校庭にはぎんなんやザクロ、柿、カリンなど、秋の実りが見られるようになりました。先日の運動会では、子どもたち一人一人が練習の成果を存分に発揮し、仲間と力を合わせて取り組む姿を見せてくれました。最後まであきらめずに走る姿、心を一つにして演技する姿、友達を精一杯応援する姿など、たくさんの感動がありました。

さて、10月の校長講話では、絵本『やばい　やばい』（作・絵：太田久美子　文：佐藤日登美　ポプラ社）を紹介しました。便利な言葉である「やばい」を題材にしながら、自分の気持ちを言葉で伝えることの大切さについて子どもたちと一緒に考えました。



私たちの周りでも、「やばい」はよく使われる言葉です。便利な言葉ではありますが、その一言だけでは本当の気持ちは十分に伝わりません。 例えば、運動会についても、「やばかったね」という言葉だけでは、その中にあるさまざまな思いまでは分かりません。「感動した」「うれしかった」「かっこよかった」「緊張したけれど頑張れた」「友達と力を合わせられて楽しかった」など、一人一人の心の中には多くの気持ちがあります。言葉を豊かに使うことは、自分の思いをより正確に伝えることにつながります。

また、自分の気持ちを表現する力は、相手の気持ちを理解する力にもつながります。「どんなことを感じているのかな」「なぜそう思ったのかな」と考えることは、相手を思いやることにもつながります。言葉を通して互いを理解し合える子どもたちに育ってほしいと願っています。

本校では、さまざまな教育活動を通して、自分の考えや思いを表現する力を大切に育てています。「自分はどう考えるのか」「なぜそう思うのか」を言葉で伝える力は、これからの社会を生きていく上で欠かせない力です。 この力は学校だけで育つものではありません。ぜひご家庭でも、お子様の話に耳を傾けていただきたいと思います。 例えば、 お子様が 「すごかった！」「やばかった！」と言った時には、「何がすごかったの？」「どんなところがよかったの？」「それを見てどんな気持ちになったの？」と尋ねてみてください。尋ねられると、子どもたちは自分の思いを言葉にしようとします。大切なのは、上手に話せることではありません。たどたどしくても、自分の言葉で表現しようとすることです。

言葉が豊かになると、心も豊かになります。そして、豊かな言葉は、人と人とのつながりを温かくしてくれます。 これからも学校と家庭が力を合わせながら、感じたことや考えたことを自分の言葉で表現できる花里っ子を育てていきたいと思います。学校中に優しい言葉や温かな言葉があふれることを願っています。









暖かいご声援、たくさんの拍手をありがとうございました

































































